

ちばち、「びかびか」の言葉を与えて表現させてみました。この表題の与え方の難しさに、思わぬ壁にぶつかつた思いをしましたが、それでも、これは面白い結果が得られました。

以上でわかることは、「色とあそぶ」という事は、全面的なゆきとどいた生活が考

(ぼ う)

赤のぬりつぼし
がが 殆んど
くろが 2名

その表現の主な形体と使用した色

(ぼっぼっ)

ま 4
み 4
たい 3
たい 3
き 2
み 2
くろ 2
くろ 2
し 1
う 1
お 1

(くろくろ)

色は多り次
はちんあ
にうてある

(ぶみぶみ)

ちやみ
みわか
あかろ
あくろ
みほし

ろろろ 2 2 1 1
ちやみわかろ 2 2 1 1
あかろあくろ 4 4 3 3 2 2
みほしあかろ 4 4 3 3 2 2
あかろあくろ 4 4 3 3 2 2
あかろあくろ 4 4 3 3 2 2

(はちばち)

火鉢を連想したのか

あか 2 9
くろ 1 3
ちや 3 3 1 1
み 3 3 1 1
も 1 1

(びかびか)

かみなりの表現に多い

24 3 2 2 1
き 3
か 2
ち 2
み 2
み 1

慮されねばならぬことです。保育者の表現力が巧みであること、いつも朗らかであること、今更ながら、人間性の重要さをつくづくと感じました。例えば、「昨日雨がふりましたね」と話す時でも、「昨日は雨がぼつぽつと降っていましたね」……と、その話合だけでも子どもの表現は違ってくる

と思うのです。ほんとにこの一年間は、データと何かの方向を求めて、子供の「色とあそぶ」の生活をより豊かにしたいと努力して来ました。効果の出ない所に、よりつきとめたいという楽しみもあるものです。今後この活動を続けていきたくて、頑張っているわけです、つたない中間報告のままに……。

(園)

(大阪学芸大学附属幼稚

子供に学ぶ

板東和子

およそ幼児の教育ぐらい難かしいものはない。

この度文部省より幼稚園教育要領が示されてお互いによろこばしいことであるがこれを手にして更に又幼稚園教育の難かしさを痛感するや切なるわけで、私共はこの難かしさを打開する為には先ず子供にさきかけて自らが幼稚園教師としての特質を悟り、望ましい経験や活動をよりよくしなれば子供に向って決してよき教育の施されよう筈はないと思うのである。

この意味に於て我が園の教職員と使丁十五名は一丸となつて自己の経験領域を広める為にあれもこれも、あれもこれもと望ま

しい経験を多くすることに努力している。

それには、フレールベルの遺した最大の言「子供から学べ」という事を第一のモットーとして日々自己の掌中にある子供達より直伝の知識を得ては自らの領域をひろめ、而して子供に与える事によって彼等の領域をひろめてやり度いと苦心をしているわけである。

私はこのような方針のもとで子供達に教えられた数多くのもの、中から子供達をして「健康安全で幸福な生活をさせる」事を目的として過去五年間一つの事を継続して子供達に学んだ一駒をひろく諸賢に紹介してきびしい御批評と御指導をいただきたいと思つのである。

それは「幼稚園集団の中における子供達のけがや故障の実態」である。

私共は何故このようなことを子供に学ばうとしたか。

それは園内に於て集団生活をたのしむとせ、健康に安全にとこい願いつつも時として予期せざるけがや故障のおこるのが現実の姿である。こうした中に於てけがや故障

の実態を如実に知り次の事項をよりよくしようとするためである。

1 子供達に取つて急速に生活の場の拡大された幼稚園集団の中において子供達を災害から守る。即ち災害の予防策である。

2 疾病の早期発見と治療のため。

3 単にけがや其の他の災害から身を守るという個人的なことだけに止らず社会生活における安全性を培うため。

4 健康のための良習慣を養うため。

5 家庭をして健康教育に対する理解を深めると共に集団の中における幼児の安全性に協力を求めるため。

右の様な次第で昭和二十五年以来現在迄（但し昭和二十七年年度を除く）五カ年間継続研究の結果、はたして私共は何を知り何をなし得たか左に列記してみよう。

1 子供達に最も多くけがや故障を与える遊具を知ることが出来た。

子供に適切な遊具の研究と改良が出来、新設に当つては最初から、この事を考慮して設置することが出来るよう

（になった

2 園内に於て最もけがの多い場所と、けがを与えるものが分つた。

その場所は特に注意深くし、ものについては危険性を除去することが出来るようになった。

3 子供達ほどの様な環境におかれた時に最も多くけがや故障をおこすかが分つた。

教師はかかる環境に子供達をおかぬ様、未然に考慮する事が出来、特に発病については家庭の健康に対する正しい理解と子供を守り尊重することの重大さを事実を以てみちびく事が出来るようになった。

4 年間における、けがや故障をおこしやすい時期というものと集団生活との関連性が分つた。

5 一日の保育にも同様、その時と、子供達の生活の流れとの関連性が分つた。

かかる時期に対しては教師はあらかじめ心の準備と対策をたてて集団生活をさせる事が出来るようになった。

6 子供に多いけがや故障の類別が分つた。

7 けがや故障の発生の動機とその原因が分つた。

動機や原因が分れば予防の策を講ずる事がたやすくなり未然に防ぐ事が出来るようになった。

8 教師はけがや故障の発生に対する周到な心構えと適当な処置（診断や治療をいうのではない）をとる事が上手になつた。

教師にこのことが出来ると幼児に対して不安な危懼をいだかさずに信頼と安心の間に狼狽することなく臨機の処置をなすことが出来るようになった。

私共は大略以上のような事を子供達に学んだわけであるが次にはその実態について簡単に述べることにしよう。

一、調査期日

昭和二十五年以来現在に至る（但し二十七年を除く）五カ年間

二、調査の対照となつた園児数

一六一五名（五年間の延園児数）

男（八〇二名） 女（八一三名）
三、調査方法

収録法による

五年間におけるけがや故障について、発生の都度怠らず記録を継続して来た。

四、けがや故障をおこした者の延総数

二四四名

比 男七〇% 女三〇%

五、けがや故障の多い時期

入園当初の四月は少く、集団に慣れかけた五月六月が年間で最も多く、七、八月は低下し、次に運動シーズンの十月に多く十一、十二月と再び低下し、三学期に至りては減少し就学前の三月は皆無に近い状態にて、このことに五年間を通じて同様の傾向である。

六、一日の中で最も多い時

午前、午後を比較して午後に少いのは午後保育をなす期間が毎年十月以降であるからであろう。

午前中では九時より十時迄の間が最も多いのは全園児が出揃い集団としての躍動が活潑になろうとする始の時であるから

であろう。

七、故障の類別（百分比）

けが 発病 その他

八四% 一三% 三%

八、けがの類別（百分比）

別	%
擦打は裂咬ね爪毒脱眼と骨切つ爪	41.24
傷傷す傷でむざ傷た白るた折傷傷す	12.12
出血を自唇ん刺に異物が刺さ	3.1
傷（自唇ん刺に異物が刺さ）	1.1
入刺に異物が刺さ	1.1
入刺に異物が刺さ	0.8
入刺に異物が刺さ	0.6
入刺に異物が刺さ	0.5
入刺に異物が刺さ	0.4
入刺に異物が刺さ	0.4
入刺に異物が刺さ	0.4
入刺に異物が刺さ	0.2

九、けがの原因（百分比）

遊具に関連を持つけが	三三%
ころんだために	二二%
けんかをしていて	一〇%
つまづいたために	七%
幼児同志の衝突、自分で何かに衝突	七%
子供同志でふざけていた	三三%
窓やその他高い処から落ちた	二三%
子供同志で相撲をしていた	二三%
友達のかんかを止めに行つて	一八%
友達につかれた	一八%
高い処からとび下りた	一八%

石や砂を投げた	一・八
木に登ろうとして	一・五
子供同志おし合った	一・五
子供同志の過失による	一・五
釘が出ていた。オシピンでついた	一・四

右表のうち遊具に関連をもつては、ブランコ、遊動円木、二台、鉄棒、シーソー、トロッコ、大積木、幼児用二輪車の順となっているがこれは一応幼児の利用度の高い順と考えることが出来る。

すべてがの発生とその原因を分析する時殆んどが幼児の不注意と発生の動機となる環境に至らしめた教師の注意不足によるものにて不抗力的なもの全く無い事を知り、我々教師は自らを顧みて幼児保育の場に傑然として猛省を促される次第である。

九、発病の状況

表	百分比	三・四、三、七、一、四、二、二、四、八、五、七、四
分類	病名	嘔吐 発熱 頭痛 腹痛 気分不快 貧血

発病について特記しなければならぬ事は幼児のり病後全快し切らぬ内に登園した

者の場合が断然多く、これから発病という場合は稀なことである。

予後の場合は家庭の不注意によるものであるがこれ等については教師は家庭と連絡を密にして全治後登園する様仕向け特に第二類伝染病については単に一人の幼児の問題だけで済ませぬ事を悟らさねばならぬ。又保育中における子供の観察をよくし、特に視診という事に慎重を期して早期発見とこれが対策について万全をつくさなければならぬ。

紙数に限られて以上、子供に教えられ教えるという事の一片を述べたのであるがこれは何処迄も佐古幼稚園という環境の中における事実であって決してこれを以て至る処の総ての幼児であるとは思っていない。

然し我が園のこの生きた事実は今後における佐古幼稚園のよりよき環境構成に大いなる貢献をして呉れるものである事を確信する次第である。

本園では近年、園児数の激増による園舎狭隘の爲園地移転、園舎増改築という大きな仕事をかかえてその間、二部制保育、小

学校借用保育等の過程を経て現在も尚二百米をへだてた新旧両園舎に園児を二分して分園保育という恵まれざる環境ではあるが、その中に於て我等の周囲に充ち満ちているよき師、子供に学びて、理論に納得する教育を行う事は幼児に幸福をもたらす所以であるを信じて、教えられ教えるの日々をつづけ度いと念ずるものである。

(徳島市立佐古幼稚園)

うれしい誕生祝

山口 菊代

当園は長崎市の中央に所在している関係上、保護者の職業は七〇%以上が商業である。

子供の環境が、こうした状態にあるので、不健康になり易い子供達を見つめて、